

+++++

「植物と人々の博物館メールマガジン」 第 68 号 2020 年 7 月 20 日発行

+++++

7 月は緑が濃くなって、花色が少ないようです。それでも、ノカンゾウ、ユリ各種、に加えて、フヨウの仲間、オシロイバナ、マツヨイグサなどが咲くようになりました。

6 年ぶりに東京学芸大学のキャンパスに入りました。学内で講義が無いので、ほとんど学生たちの姿はなく、とても寂しい森でした。下記のサイトで大学や野川公園の写真をお見せします。 [www.milletimplic.net/weedlife/flowers.html](http://www.milletimplic.net/weedlife/flowers.html)

ヴァイラス Covid19 の流行が早く過ぎ去って、自由に解放されたいです。しかし、再びの拡大傾向で、東京から出ることを遠慮するようです。皆様も十分に注意をしながら、お大事にお過ごしください。

### ○お知らせ

1. 東京学芸大学のコカ・コーラ（アメリカ）プロジェクトに関連して、**雑穀発泡酒ソビボ・ピーボの復活**をする提案が南先生からあり、藤野の宮本さんの栽培するキビやホップを使って、藤野のクラフトビールを造る山口さんに協力いただけるように、検討を始めました。
2. 植物と人々の博物館をめぐるいくつかの会、エコミュージアム日本村ミュージアム研究会、雑穀街道普及会などの**在り方**が個別に検討されています。ある程度の事情や方向が見えて来ましたら、ご報告し、植物と人々の博物館の在り方の再整理についてご相談します。

○予定：ヴァイラス感染が小康状態になったら、資料整理や雑穀見本園の草取りに行きます。

#### 1. 植物と人々の博物館

- 1) **開館・作業予定日**：2020 年 7 月は、引き続きヴァイラス対策のため休館します。
- 2) **雑穀の種子継**：小菅の畑には行けませんので、秋子さんが種継をしてくださっています。小金井でも、プランタで栽培して種継をしています。生育状況はホームページでお見せしています。 [www.milletimplic.net/weedlife/flowers.html](http://www.milletimplic.net/weedlife/flowers.html)
- 3) **民族植物学ノオト**： 第 14 号に、植物と人々に関する随筆など、ご寄稿を歓迎します。電子出版ですからカラー写真も大丈夫です。年内にご原稿を頂ければ嬉しいです。今号に、編集子は山村について分析、熟考したエッセイ 2 編を載せる予定です。これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズ）で読めます。国会図書館にも収録されています。バックナンバーは僅少ですが、希望者に差し上げます。メールマガジンもすべて記録してあります。 [www.ppmusee.org/goods.html](http://www.ppmusee.org/goods.html)

4) **電子書籍**：植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）に電子書籍の項で読めます。これらは国立国会図書館の e デポに登録されました。

降矢静夫師（俳号光岑）の雑穀栽培を通じた人生哲学を深く学ぶために書簡および対談テー

ブ（木俣宛約 300 通、20 本余）もすべてデータベース化作業を進めており、これらを基に『山村農人の教養』として一文をまとめます。また、書簡はやっと整理が済み、個人情報削除して下記に公開しました。調査者による聞き取りではなく、本人の記述ですから、20 世紀後半の山村農のととても良い農事記録としてとても貴重です。

[www.milletimplic.net/forestvil/furuyaletters.pdf](http://www.milletimplic.net/forestvil/furuyaletters.pdf)

『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』『日本雑穀のむら』は一部公開、改訂しています。

赤石山脈周辺の雑穀の変異と系統について、植物学データの解析が出来ましたので、第五章中部・北陸地方の雑穀文化複合の補論 5 として、近日中に公開します。

『第四紀植物』および“Essentials of Ethnobotany”は非公開で書き進めています。

## 5) 森とむらの図書室

**寄贈冊子：**お米の勉強会会報、クリンネス、現代農業、うかたま、季刊地域、グリーンもあ、グリーン・ウォッチなどをありがたく頂いています。

**会員雑誌：**雑穀研究、環境文明 21 会報（学協会は退会しました）。

今月の推薦図書：鬼と戦う『鬼滅の刃』第 1 巻から第 21 巻（最新）、野川公園周辺を舞台にした『我らが少女 A』（高村薫 2019）、澱んだ群れ社会の罪悪『いじめの構造』（内藤朝雄 2009）、絶望という『死に至る病』（キルケゴール 1849）を読みました。野川公園の舞台はめぐって写真に撮りました（6 月の 2）。

## 2. 雑穀街道普及会：

遠くアフリカなどから極東にまで伝播してきて、縄文後期以降、この島嶼に住む人々の命の糧であった雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培は今にもいよいよ絶滅しそうな状況にあります。山村農人・降矢静夫さんは 92 歳余まで、人生の楽しみと誇りとして雑穀栽培普及に尽くされました。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として継承すべきです。

雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げて行ってほしいです。2023 年は国際雑穀年になります。

ぜひ、賛同者リストに加わって下さり、提案が広がるようにご援助くださいますよう、世界、全国各地からのご連絡を宜しく願います。

\* 下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、45 年間、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第 3 章関東地方・第 4 章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。第 5 章中部・北陸地方を整理しています。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/milletns/jnmpmilvil.html>

○ お知らせ 関心のある団体から

家族の食べ物は自分たちで得ること（生業）が原則で、足りない食べ物を分けていただいていること（農林漁業）に感謝したいです。すべて消費、廃棄だけでは、生き物の文明、素のままの美しい暮らしには添いません。これからは一層厳しい時代に入るのでしょうから、家族を守るために本気で心して自給知足の努力や食料備蓄を心掛ける必要があると思います。専任研究員は、日本国憲法に環境原理、生業の自由、食料主権などを明文化する提案をしています。

国民・市民は自分たちを守るための条文を憲法に明記するように考える必要があります。既にいくつかの国々では明文化されています。

トランジション・ジャパン

ご関心の方は参加ください。エコミュージアム日本村（トランジション小菅）もネットワークに参加しています。また、研究員はトランジション小金井（TTK）の会員でもあります。

家族農林漁業プラットフォーム・ジャパン（国連家族農業の10年）

ご関心の方は是非ご入会ください。研究員個人として賛同し、会員になり、ホームページに意見を掲載していただいています。農水省基本方針改訂へのパブリックコメントにも掲載されています。

<https://www.sfnj.net/single-post/2019/05/01/voice-mikio-kimata>

連絡先は下記です。

E-mail: [info@ffpj.org](mailto:info@ffpj.org) URL: <https://www.ffpj.org>

Facebook: <https://www.facebook.com/ffpj2019/> Twitter: @FFPJ2019

~~~~~  
自然文化誌研究会（東京都日野市）：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

ミュージーズ研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：館長 木下善晴

日本村塾生・研究員：木俣美樹男（東京）、西村俊（石川）、藤盛礼恵（千葉）、川上香（長野）ほか

雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

公式 HP：自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

雑穀・民族植物学関係の個人 HP:生き物の文明への黙示録

<http://www.milletimplic.net/>  
~~~~~